

かけはし～制服から考えよう～第61号

4月10日に檀原市の中学校で入学式が行われました。本年度から制服がブレザータイプに変わった中学校が3校あります。昨年度に変わった学校もあり1年生と3年生が違う制服で学校生活を送っている学校が4校あります。変更の理由は機能性など様々だと思いますが、1つの理由に性の多様性を尊重する観点から子どもたちがスラックスとスカートのどちらにするかを選べることを大切にしてくださいと考えています。実際に女子生徒がスラックスとスカートを选べる制服についてどのような意見があるのでしょうか。LGBTQなど性的少数者の支援に取り組むNPO法人プライドハウス東京が9つの自治体2172名の養護教諭から有効回答を得た調査によると「性別ごとにアイテムが決められている従来型の制服で問題はないと思う」との質問に85%の方が「そうは思わない」と回答しており、変更に対しては肯定的意見が多数を占めることが分かります。さらに96%が「スラックス、スカート、ネクタイ、リボンなどいずれの組み合わせもOKとする選択制の制服がいいと思う」と回答しています。この意見に対しては男子生徒のリボンについてイメージしにくいのではないかと思います。私もイメージできなかったのですが、宝塚大学の日高庸晴教授に「大学のそばにグッチがあるから見てきたら」と助言をいただき見に行きました。その日は2人の男性の店員さんがおられました。1人がネクタイ、もう1人が紐状のリボンを着用して勤務しておられ、個人の感想になりますが、どちらも素敵だと感じたことを紹介しておきます。



では男子がスカートを着用することはどうなのでしょう。スコットランドではスカート状の民族衣装キルトが正装となっています。また、フィジーやミャンマー、ブータンといった国では男性がスカートを履くことはごく普通のことだそうです。しかし、今、男子中学生がスカートを履いて登校すると勝手に動画を撮影されたりすることが心配です。女子のズボンと男子のスカートでは、お店で買えるのかどうかについても大きな違いがあります。なぜ男子のスカートはあまり売っていないのに女子のズボンは簡単に買えるのでしょうか。アメリカで最初にズボンを履いた女性の1人といわれるメアリー・エドワーズ・ウォーカーさんは1832年生まれで、当時女性はスカートを履くのが当たり前でした。メアリーさんはズボンを履いているという理由で逮捕される経験があるなど、今では考えられないことも起こりました。つまり、女性がズボンを履くことが当たり前ではない時代もあったのです。絵本『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』の巻末には「わたしたちがいま、好きなものを着ることができるのも、当時の社会の常識に疑問をなげかけ、道を切りひらいてくれたメアリー・ウォーカーのおかげなのです。」との記載があります。そんなメアリーさんは「わたしは男性の服を着ているわけではありません。わたしはわたしの服を着ているのです」とのコメントも残されています。

制服を選べることは、性的マイノリティの子どもたちのためだけではなく、すべての子どもたちにとって考える機会になっているのではないのでしょうか。今は男性がスカートを履いても逮捕されることはないと思いますが、日常的なことではないと思います。同性婚なども含め、みんなが自分らしく生きることにつながればと思います。

人権・地域教育課